

奈良県感染症情報

平成30年 第50週(12月10日～12月16日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題「ー梅毒についてー」

❖ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	5.20	(1.09)	↑↑	↑↑	↑↑	→
2	感染性胃腸炎	5.06	(6.35)	→	→	↗	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.59	(2.15)	↗	→	↑	↗
4	手足口病	0.82	(0.71)	↓	↓	↓	↓
5	水痘	0.76	(0.24)	↑	↑↑	↗	↑↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓減少**

❖ 県内概況 ❖

インフルエンザの報告数は増加しています。特に中和保健所西部地域では、第49週の30倍の報告があり、定点当たり報告数は12となり、注意報開始基準値の10を上回っています。その他の地域についても報告数は増加しています。食器、タオルなどの共有は避け、手洗いをこまめに行うよう努めましょう。

水痘の報告数は北部地域で増えています。水痘は、感染力の強い水痘・帯状疱疹ウイルスが原因の疾患です。有効な予防方法はワクチン接種で、平成26年より定期接種となっています。主に小児の疾患ですが、成人が発症すると重症化するリスクが高いとされているため、注意が必要です。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

外来患者数は、インフルエンザ予防接種が終わり、感染性胃腸炎が少ない状態が続き、12月にしては多くない。先週インフルエンザが増加したが、今週は少なくまだ流行が開始している感はない。迅速検査では全てA型が検出されている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

前週末から学童を中心にインフルエンザが急増。
 すべてA型。重症の印象はない。
 感染性腸炎も流行。ノロ様。ロタはない。
 RSV, hMPV陽性例がそれぞれ1例ずつあった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

増加したインフルエンザは落ち着いている。
 ノロウイルス胃腸炎が増加、またそれ以外の下痢中心の胃腸炎も増加してきた。
 マイコプラズマ感染症も多い。



❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 30 年 第 50 週 12 月 10 日 ~ 16 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	14	14	11	10	2	4	
インフルエンザ	286 (5.20)	52 (3.71)	71 (5.07)	38 (3.45)	120 (12.00)		5 (1.25)	
小児科定点数	34	9	9	7	6	1	2	
RSウイルス感染症	7 (0.21)	5 (0.56)		1 (0.14)			1 (0.50)	
咽頭結膜熱	21 (0.62)	3 (0.33)	1 (0.11)	9 (1.29)	8 (1.33)			
A群溶連菌咽頭炎	88 (2.59)	14 (1.56)	6 (0.67)	14 (2.00)	53 (8.83)		1 (0.50)	
感染性胃腸炎	172 (5.06)	25 (2.78)	32 (3.56)	61 (8.71)	52 (8.67)		2 (1.00)	
水痘	26 (0.76)	8 (0.89)	11 (1.22)	6 (0.86)			1 (0.50)	
手足口病	28 (0.82)	2 (0.22)	8 (0.89)	1 (1.14)	10 (1.67)			
伝染性紅斑	5 (0.15)	3 (0.33)		1 (0.14)	1 (0.17)			
突発性発しん	13 (0.38)	2 (0.22)	3 (0.33)	4 (0.57)	4 (0.67)			
ヘルパンギーナ								
流行性耳下腺炎	6 (0.18)	2 (0.22)	2 (0.22)		2 (0.33)			
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	0	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	7 (0.70)	2 (0.67)	1 (0.33)	2 (1.00)	2 (1.00)			
葛城定点数	6	1	2	1	1	0	1	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎	1 (0.17)		1 (0.50)					
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核4件(奈良市1、郡山1、中和2)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	アメーバ赤痢1件(奈良市1) 急性脳炎1件(奈良市1) 侵襲性肺炎球菌感染症1件(奈良市1) 梅毒1件(郡山1) 百日咳3件(奈良市2、0歳、11歳、中和1、0歳) 風しん1件(中和1)

❖ 第50週のトピックス ❖

◆インフルエンザ流行レベルマップ(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>

◆風しんについて(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/

◆風疹急増に関する緊急情報(2018):2018年12月12日現在(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

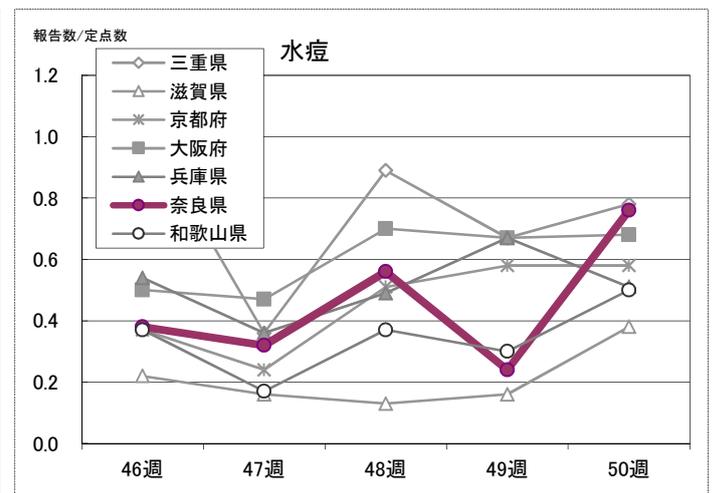
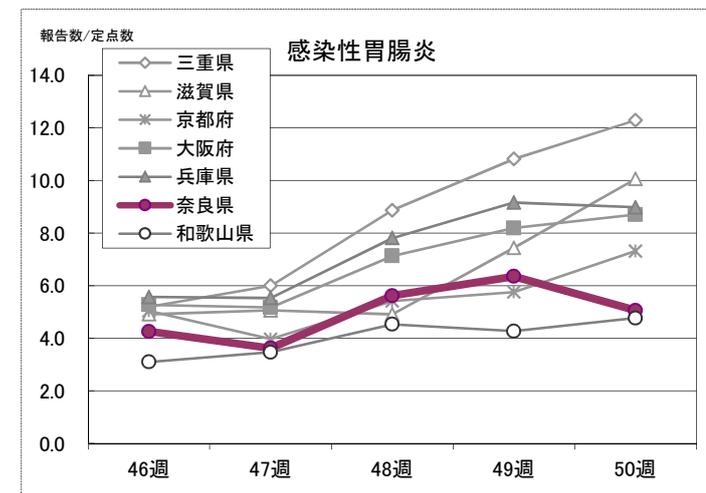
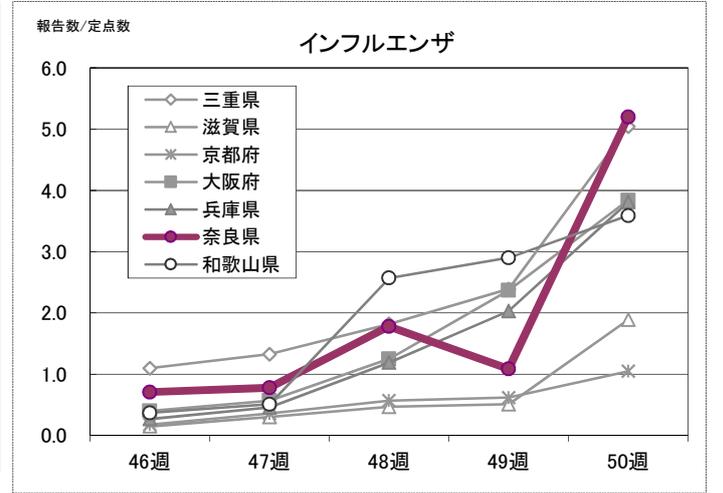
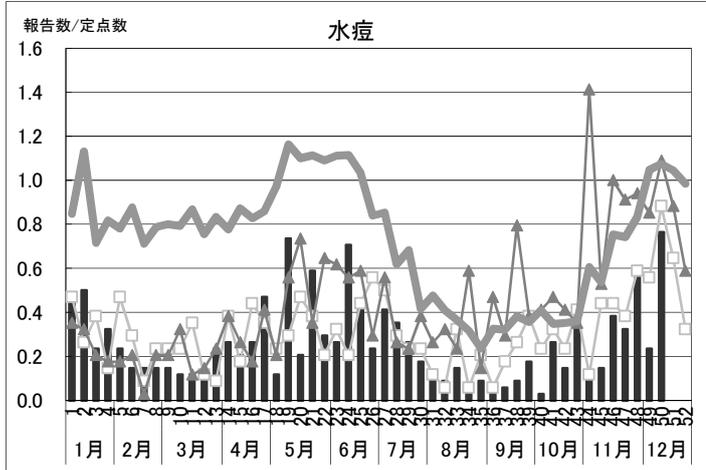
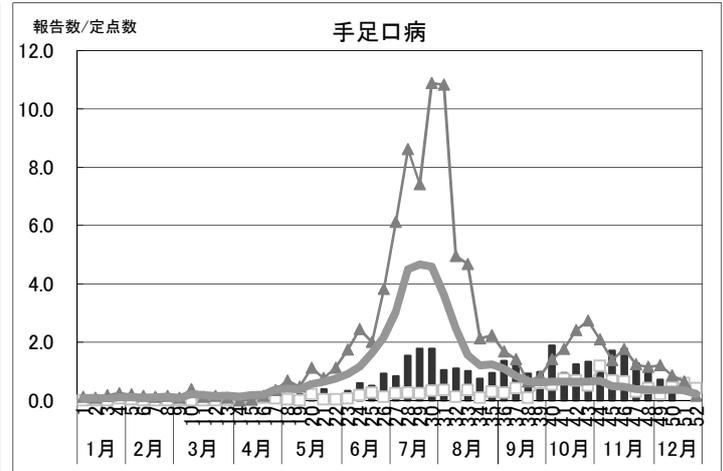
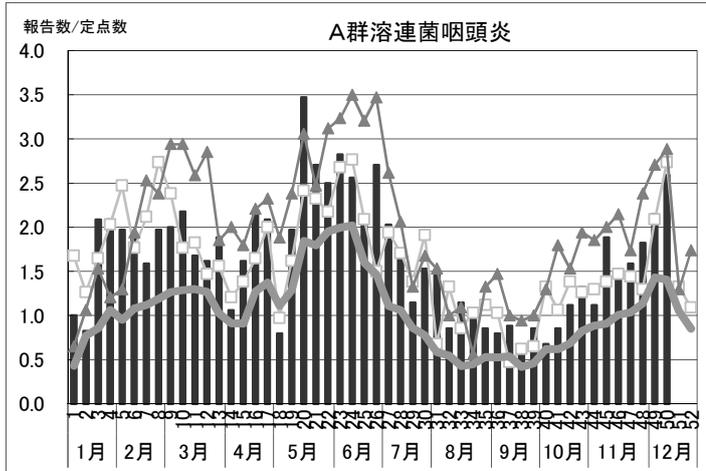
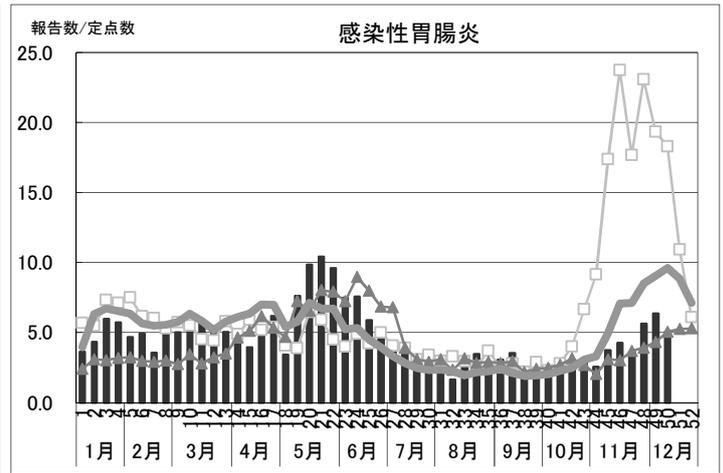
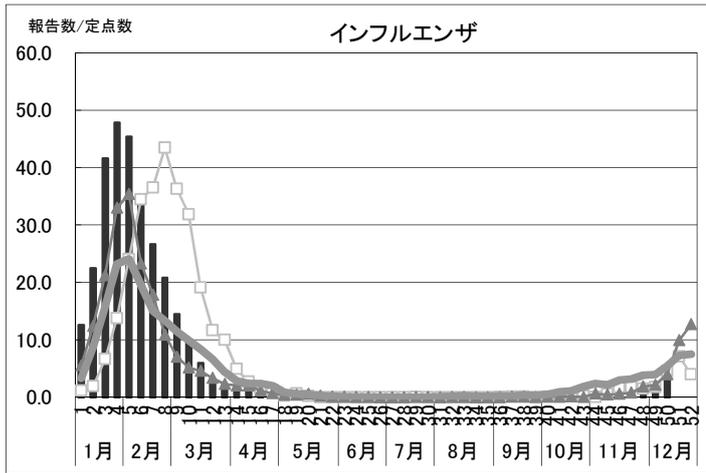
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男		1	2	5	5	6	7	10	22	11	15	24	3	3	4	4	2	3		1	128	8134
	女		1	5	2	4	9	8	10	16	20	18	23	3	9	10	8	7	2		3	158	8168
RSウイルス感染症	男			3	1																	4	834
	女	1	1			1																3	755
咽頭結膜熱	男		1	4	1	1		3		2												12	357
	女			4			3		1	1												9	312
A群溶連菌咽頭炎	男		1		6	2	13	5	8	9	1	4	10									59	1525
	女			1	1	4	9	1	2		2	4			5							29	1291
感染性胃腸炎	男	1	5	17	17	7	7	13	5	4	5	3	6									99	4212
	女		2	14	8	8	8	7	5	1	1	3	3	1	12							73	3701
水痘	男			2	1	1	1	1	3	3			1									13	211
	女			1				3	1	2	2	2										13	235
手足口病	男		3	7	4	6	2		1													23	663
	女			1	1	2	1															5	485
伝染性紅斑	男						2					1										3	131
	女					1																2	130
突発性発しん	男		2	2																		4	359
	女		1	6	2																	9	353
ヘルパンギーナ	男																						508
	女																						433
流行性耳下腺炎	男				1			1	1	1												4	66
	女				1				1													2	53
急性出血性結膜炎	男																						2
	女															2	1					3	170
流行性角結膜炎	男																						4
	女														1	2	1						4
細菌性髄膜炎	男																						7
	女																						6
無菌性髄膜炎	男																						6
	女																						5
マイコプラズマ肺炎	男				1																		36
	女																					1	30
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						33
	女																						23

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

■ H30 ▲ H29 □ H28 〰 過去10年平均





— 梅毒について —

✿梅毒とは

梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体が原因の感染症で、主に性的接触により感染します。2010年以降、全国的に報告数は増加し続けており、男性は20～40代、女性は20代で報告が多い状況です。推定感染経路は、男女ともに異性間性的接触が多くなっています。不特定の人と性交渉を行うことがリスクを高めます。また梅毒は、一度完治しても生涯にわたる免疫（終生免疫）は得られず、予防しなければ再び感染します。性交渉の際にはコンドームを適切に使用することが大切ですが、コンドームで覆わない部分で感染が起こることもあるため、完全に予防できると過信しないで下さい。皮膚や粘膜に異常がある場合は性的接触を控え、医療機関を受診して下さい。

✿一番初めに現れる症状（感染後およそ3週間後）

梅毒は、感染後3～6週間の潜伏期を経て、様々な症状が順次出現しますが、初期症状として、感染部位（陰部、口唇部、肛門など）に、しこりができることがあります。また股の付け根の部分（鼠径部）のリンパ節が腫れることもあります。感染する部位は、性器だけではありません。オーラルセックスでは、口内に、アナルセックスでは肛門や直腸に感染します。

これらの症状がみられた場合は、必ず検査を受けるようにして下さい。また症状は、一旦消失しますが、病原体は体内におり、血液により全身へ運ばれ、その後全身に症状が現れるようになります。

✿先天梅毒

梅毒に感染している妊婦から胎児に感染する多臓器感染症のことを先天梅毒といいます。胎児が梅毒に感染することで、死産や早産、奇形などを引き起こす原因となります。近年、先天梅毒の報告は多くなっています。

✿奈良県の状況

奈良県も全国同様に梅毒患者の報告は増加しています。今年の男性患者報告数は、過去10年で最も多くなっています（右図：過去10年の男女別報告数）。これまで先天梅毒の報告はありませんが、男女ともに親となる年齢層からの報告が多いため注意が必要です。

✿さいごに

梅毒は、早期発見・早期治療により完治できる疾患です。気になる症状、疑う気持ちがある場合には、パートナーと一緒に必ず検査を受けるようにして下さい。

